

▼TKMラグビー教室
「ガールズデー」実施。
ラグビー文化をつなごう

9月1日「第1回TKMラグビー教室ドリムプロジェクト」がイルズ・ラグビー・デイ」が神奈川県立保土ヶ谷運動公園ラグビー場で開催された。

コーチ陣は横浜市戸塚区に活動拠点を置く医療法人チーム「TKM・戸塚共立メディカルラグビーフットボールクラブ」の花岡HCはじめ選手・OG・コーチ・トレーナーなど18人。

参加者は県内のスクールに所属する小・中・高校生約30人の女子選手たちである。

胸には「PRINCESS」、背面には「KANAGAWA Girls Rugby football」とプリントされたピンク



ともに夢を見た一日となった

のユニフォームが目に見えなかった。普段は各ラグビースクールに分かれ男子といっしょに練習している彼女たち。だが、女子だけのチームが組めるほど人数が揃っていないわけでもなく、各スクールともに小学校高学年になるに従い女子選手が減ってゆくことにも悩まされてきた。その打開策として、神奈川県協会はスクールの垣根を越え、女子選手だけをまとめて定期的に練習会を行い、関東協会等主催の女子大会にも出場する機会を作った。この取組みが功を奏し、女子選手の減少に歯止めが掛かり、活動が活発になっていく。それがこの日集まった笑顔弾ける「神奈川県PRINCESS」だ。女子セブンズシニアアカデミーの練習後に会場に駆け付けたTKM高橋千春キャプテンは、「みんながあまりにも上手なので驚きました(笑)。私たちは教えるというよりも、いつまでも夢を追い続けることの大切さや、健康で楽しくスポーツが出来ることの喜びや感謝の心を伝えていきたいと思っています。課題は医療法人だからこそ出来ることがあるはずなんです。それがまだ確立出来ていないことです」と言う。



雨の中でも笑顔があふれた

この日のメニューは、人数合わせや芋虫ゲームに始まり、パス&ランニング、タッチフットなどを1時間半。「やったことあるある!」や「できた!」などグラウンドのあちこちで歓声があがった。最後は満面の笑顔で記念撮影。ドリムプロジェクトと銘打たれた企業チームとミニ・ジュニア世代との交流は始まったばかりだが、素晴らしいラグビー文化を繋ぐ機会であってほしいと願っている。

「TKMは医療法人として地域に根差したチームを目指しています。これからは小学校への訪問も含めてラグビー教室を開催していきたいと考えています。明るく健康的な地域社会を目指して、さらに活動を広げていきたいと思っています」とTKMの花岡HCは語っている。

▼福島県伊達市イベント
元気がつらつプロジェクト。ありがとう、サクラライフティーン

9月15日、福島県伊達市で同市保原総合公園のリニューアルオープン記念イベントが行われた。子どもたちをはじめ市民の皆さんに伊達市の震災復興を実感してもらうとともに、子どもたちが元気に外遊びできる環境を発信するために行われた。

イベントでは、タグラグビー教室も行われ、15人制女子日本代表「サクラライフティーン」のメンバー4名(佐々木時子、アンジェラ・エルティンク、林明里、神村英里各選手)と、関東協会女子委員会の関奈津子さんが指導にあたった。カザフスタン、アルマティでの「女子ラグビーワールドカップ2014アジア地区予選」の力

ザフスタンとの激闘の疲れもみせず熱心に指導してくれた4人。教室には、伊達ラグビースクールの生徒はじめ、地元の子もまたちとその保護者、聖光学院高校ラグビー部の生徒など約100人が参加した。

あいにく台風18号が北上する中で雨も降ったが、代表メンバーとスクールのコーチが前日に考えた指導内容をもとに、5つのグループに分かれて活動。ストレッチやコミュニケーションゲーム、タグラグビーのゲームなどに取り組んだ。一流選手たちの指導で、子どもも親たちも芝生の上を元気に走り回り、スポーツの秋の到来とタグラグビーの楽しさを満喫した。

「良い思い出ができました。ぜひ、伊達市から日本女子代表が出ることを願っております」



大畑大介客員教授と後藤翔太HCが一人ひとりを丁寧にテストした

「自ら手を挙げて参加してくださったこと、前日から指導に関する細かい打ち合わせにも参加していただきほんとうに感謝しております。伊達ラグビースクールは、3年前にタグラグビー教室としてスタートし、震災後も継続して約50人の子どもたちに参加してもらっており、どんどん生徒が増えていきます。出前教室などにも取り組みながら、ラグビーの楽しさ、素晴らしさを親御さんともに感じていただくことを願って頑張っております。今回、女子日本代表選手とともに練習ができるという、夢のような機会をいただいて本当に感激しております」

これに対して、佐々木時子選手も応えた。

PRESENT
▶日比野弘 著
『早稲田ラグビー 誇りをかけて』

日本ラグビー協会名誉会長、元早大ラグビー部監督の日比野弘さんが、『早稲田ラグビー 誇りをかけて』を上梓した。同書は、早大監督を4期務めた筆者がラグビーへの情熱と、早稲田復活へ思うことを余すことなく書き綴ったもの。『早稲田はどんな相手でも勝たなくてはならない』『勝つことを真摯に探究し、妥協することなく努力し続ける』など、熱い筆致と当時のエピソード、氏の哲学などから、深い愛情が伝わる。「私はこの本を、早稲田を親に国立競技場に詰めかけた多くの方々、またラグビーに戻ってきてほしいという思いで書きました。そして、それが起爆剤となって、ラグビーそのものの人気復活や、ワールドカップ成功が実現してほしいと願っています」。是非、夢を実現させましょう。

そんな熱い内容の『早稲田ラグビー 誇りをかけて』を10名にプレゼントします。希望される方は、読者プレゼントに応募する要領で応募してください。締め切りは10月15日です(当日消印有効)

早稲田ラグビー 誇りをかけて
日比野弘 著
講談社
定価:1500円+税